



災害に強くなった旧新潟税関庁舎(放水銃試験)

## ■「帆檣成林」とは？

帆柱が林のように多く立つ様子を表した語。人が多く出入りする活気ある「みなと」をイメージしました。

新潟市歴史博物館  
博物館ニュース  
vol.45

## ■CONTENTS

<b>特集1</b>	<b>新潟開港の歩みと旧新潟税関庁舎について</b>	<b>P.2~3</b>
<b>特集2</b>	<b>むかしのくらし展 いれもの展</b>	<b>P.4</b>
歴史さんぽ	碓谷小路×西堀通	P.5
おすすめの一冊	『蒲原平野に生かされて』	P.5
特集3	新収蔵品展から 一冊や金魚をかたどった郷土玩具	P.6
館長日記	西安を訪ねて	P.7
収蔵資料紹介	新潟市一九五三『新潟県産業観光大博覧会誌』	P.7
博物館 あちらこちら	駐車場	P.8

# 帆檣成林

—はんしょうせいりん—



■ 帆檣成林「はんしょうせいりん」第45号  
■ 編集・発行／新潟市歴史博物館 〒951-8013 新潟市中央区柳島町2-10  
■ 印刷／株式会社ウエッザップ

## 【たいげんのひろばプログラム】楽しみながら、遊びながら、昔のことを学びます。

日時	タイトル	内容	申込み・対象・参加費
1月5日±6日 14:00~15:00	お正月あそび 凧をつくろう	凧をつくって遊んでみましょう	どなたでも・申込み不要・100円
1月13日 14:00~15:30	税関ペーパークラフトづくり	税関リニューアルオープンと税関での企画展を記念して、税関のペーパークラフトをつくります。	どなたでも・申込み不要・無料・材料がなくなり次第終了
1月19日± 10:00~12:00	みなとびあワラ部	ワラゾウリづくりを教えます。初心者の方もどうぞ。	大人向けの活動・部員が対象
1月19日± 14:00~15:30	みなとびあもめん部	博物館資料を使いながら、布生産にまつわる手仕事を体験する試みです。	大人向けの活動・部員が対象
1月20日 14:00~15:30	こども歴史クラブ「みなとびあの裏側を見てみよう」	みなとびあには文化財と呼ばれるさまざまなものがあります。それらを後世に伝えるためにどのようなことが行われているでしょうか。普段は入れない場所にも行ってみましょう。	部員が対象
1月26日±27日 14:00~15:30	古代鏡チョコづくり	金属を溶かしてつくる古代の鏡。その作り方をチョコで体験してみよう。パレンタインのチョコレートにいかがですか？	要申込み(1/18げつ)・どなたでも・400円・いずれも各日8人(抽選)
1月27日 10:30~12:00	みなとびあで親子自然体験・冬	みなとびあの敷地で自然に触れながら親子で楽しく遊びます。	2歳以上の未就学児と保護者先着15組・要申込み・無料

お申込みは、電子メール・往復はがきで当館まで。申込み締切日は、当館までお問い合わせください。

### 現在 開催中の企画展

#### 第15回むかしのくらし展「いれもの」

衣食住の日常生活や仕事、さまざまな行事などで使われた「いれもの」を中心に、むかしの道具の移り変わりを紹介します。

**会期** 2018年11月10日(土)~2019年1月27日(日)

**休館日** 年末年始(12月28日~1月3日)、毎週月曜日(12月24日、1月14日は開館)、12月25日(火)、1月15日(火)

**観覧料** 無料 ※常設展の観覧は有料です

**主催** 新潟市歴史博物館

<b>関連事業</b>	■お正月は毎日展示解説会 日時：2019年1月4日(金)・5日(土)・6日(日) 各日2回開催(午前11時~午後2時)~1回30分程度 参加費：無料 ※事前申込み不要・直接企画展示室へお越しください	■ミニ講座：お弁当の歴史 日時：2019年1月20日(日) 午後2時~3時 会場：本館2階セミナー室 定員：80人(先着) 参加費：無料 ※事前申込み不要・直接会場へお越しください
	■いずれのイベントも、メールかFAXでイベント名・氏名・住所・電話番号を明記し、博物館までお申込み下さい	

### 博物館講座

当館学芸員が調査・研究をすすめているテーマについて、毎月第4日曜日にお話します。

**【時間】** 13:30~15:00  
**【会場】** 本館2階セミナー室  
**【申込】** 不要  
(当日受付・定員80人程度)  
**【資料代】** 100円

- ◆12月の講座：12月23日(日)  
「中ノ口川の直江兼続伝承を探る」  
講師：田嶋悠佑
- ◆1月の講座：1月27日(日)  
「近世新潟の「助買」」  
講師：安宅俊介
- ◆2月の講座：2月24日(日)  
「新潟と気象事業のはじまり」  
講師：鈴木彩也花

### 博物館 あちらこちら

### 駐車場

みなとびあには二つの駐車場があります。一つは敷地南側の三角駐車場です。これは前身の新潟市郷土資料館時代に造られた駐車場です。もう一つは敷地北側の大駐車場です。平成16年の歴史博物館開館の際に使用が開始されました。本館など敷地までの通路はスロープやヒートローディングが設置されていて、車いすなどでの通行や冬場の積雪の際にも不便なく利用できるようになっています。古町方面から来ると三角駐車場がまず目に入るので、駐車したくなりますが、大駐車場も是非ご利用ください。



### 次回 企画展

#### 収蔵品・新収蔵品展

資料の収集・保存は博物館の重要な事業です。今年度は、「収蔵品・新収蔵品展」と題し、当該年度に新たに収集した資料と収蔵品をあわせて紹介します。

**【会期】** 2019年2月9日(土)~3月17日(日)

**【休館日】** 毎週月曜日(2月11日は開館)、2月12日(火)

**【観覧料】** 無料  
※常設展の観覧は有料です

#### 「旧新潟税関庁舎と史跡」展

新潟開港150周年を迎える2019年は、旧新潟税関庁舎の重要文化財指定・敷地の史跡指定50周年にあたります。耐震改修工事を経た旧新潟税関庁舎は、この年から開港場新潟を象徴する施設として新たなスタートを切ります。本展はリニューアルした旧庁舎を会場に、建物に施された工事内容や重要文化財・史跡としての価値、また、その特色などを紹介します。

**【会期】** 2019年1月12日(土)~3月17日(日)

**【会場】** 旧新潟税関庁舎内  
**【休館日】** 毎週月曜日(1月14日、2月11日は開館)、1月15日(火)、1月28日(月)~2月4日(月)、2月12日(火)

**【観覧料】** 無料

## お知らせ

■1月28日(月)~2月4日(月)は設備整備のため休館です。

**編集後記** 今回は、税関開港記念について特集しました。改修工事中であった旧新潟税関庁舎は、いよいよ2019年開館します。開港150周年というこの機会に、旧税関庁舎の存在や魅力を市民の方々により一層認知していただきたいですね。そのためには、旧税関庁舎を積極的に活用していくことも重要です。当館では、塔屋見学といった旧税関庁舎を使用したイベントを随時開催しております。その際は、是非お越しください。(鈴木)

### ■お問い合わせ・申込みは博物館まで…

**新潟市歴史博物館 みなとびあ**  
住所：〒951-8013 新潟市中央区柳島町2-10  
Tel：025-225-6111 Fax：025-225-6130  
E-mail：museum@nchm.jp http://www.nchm.jp  
【休館日】毎週月曜日、祝日・年末年始(12/28~1/3)  
【開館時間】(4-9月)9:30~18:00 / (10-3月)9:30~17:00



2018. 6. 15 現在

「みなとびあ歴史発見プロジェクト」は、下記の地域の企業・団体のみなさんからご協賛をいただいています。

**NST** 日和山五合目 **北陸ガス** **NSGグループ** **Water Shuttle**

**本間組** **田中屋本店** **堀川** **新潟 たいやうち**

# 新潟開港の歩みと旧新潟税関庁舎について

若崎 敦明

明治元年十一月十九日（西暦一八六九年一月一日）に、新潟港は外国に開かれた港となりました。そして、二〇一九年一月一日、一五〇周年の節目の日を迎えます。

あわせて、二〇一九年は、外国貿易が始まることで建設された運上所（のちに新潟税関と改称、現在は旧新潟税関庁舎）の建物が重要文化財に指定され、附属する建物（石庫）を含む敷地が史跡に指定されてから五〇周年を迎える記念すべき年でもあります。ここでは、おもに新潟開港までの流れについて、紹介したいと思います。

嘉永七（一八五四）年に、幕府は、日米和親条約を締結し開国しました。安政五（一八五八）年には、アメリカ・イギリス・オランダ・フランス・ロシアの五か国と修好通商条約が結ばれ、神奈川（横浜）・箱館（函館）・長崎・兵庫（神戸）とともに、新潟が開港五港の一つに選ばれます。その際、新潟の開港日は安政六年十二月九日（一八六〇年一月一日）と定められました。

ただし、この条約では新潟開港は確定されたものではありませんでした。と言うのも、諸国による調査の結果、



安政五か国条約写し  
新潟市歴史博物館蔵

新潟が開港場として不適当であれば、日本海側の別の港を開くという条件がつけられていたためです。それでは、なぜ新潟が開港場に挙げられたのでしょうか。それは、五か国は日本海側の港を開港するよう要求し、日本海側の繁栄した港で幕府領であったからでした。

新潟が幕府領となるのは、天保十四（一八四三）年のことで、五か国条約

締結の十五年前のことです。元は長岡藩領でしたが、二度の抜け荷事件発覚により幕府領へとかわりました。

新潟開港に向け、外国船が新潟港の調査を始めます。安政六年四月二十二日、最初の来航船は、箱館からやってきたロシアの軍艦「ジキット号」でした。沖合に停泊し、乗員はボートで港の入口付近を測量し、上陸して新潟町を見物し、翌二十三日の午後には去りました。

同二十三日の昼前に、オランダの軍艦「バーリー号」が来航します。バー



「新潟湊之真景」 安政6(1859)年  
新潟市歴史博物館蔵

リー号は二十五日まで沖合に停泊し、水深を測量し、船長や士官は上陸して町中を見学したほか、願随寺で新潟奉行所や外国奉行支配下の役人と会談しました。

十月九日には、イギリス船が二隻で来航しました。一隻は軍艦「アクトン号」、もう一隻は蒸気船「トウフ号」でした。荒天のため「アクトン号」の艦長が上陸できず、佐渡沖で停泊して天候の回復を待ちましたが、新潟への上陸をあきらめ、再調査と新潟奉行との会談を行いたい旨の手紙を託し、佐渡から立ち去りました。

調査の結果、アメリカ公使のハリスは、水深の浅い新潟港の開港中止を申し入れ、十月二十四日に幕府は、予定の期日に新潟を開港できないことを五か国に通告しました。

万延元（一八六〇）年三月三日に桜田門外の変が起こると、尊王攘夷派の勢力が強まり、幕府は新潟・兵庫の開港と江戸・大坂の開市の延期交渉を五か国との間で行うため、ヨーロッパに使節を派遣します。この交渉の結果、新潟（もしくは代港）の開港期日は慶応三年十二月七日（一八六八年一月一日）に延期されることになりました。

ための準備が整っていないので、開港日を三か月延期するよう五か国に求め、各国は同意しました。これらにより、新潟が開港場となることが正式に決定され、開港日が慶応四年三月九日（一八六八年四月一日）と定められました。

しかし、慶応四年一月三日、鳥羽・伏見で戊辰戦争が始まります。新政府軍は、江戸に向かって進軍し、四月十一日に江戸城が明け渡され、幕府との戦争は終結します。しかし、会津・庄内藩の処分をめぐる、仙台・米沢などの東北二藩は奥羽列藩同盟を結び、さらに越後諸藩が加わって奥羽越列藩同盟となつて、越後・北関東・東北で新政府軍と同盟軍の間で戦闘が繰り返され、この戦いは九月二十二日に会津若松城が陥落するまで続き、越後は五月から八月まで戦場となりました。開港場とされていた新潟町は、六月一日に新潟奉行所から米沢藩に引き渡され、米沢・会津・仙台・庄内藩が管理することになりました。

新政府は、戊辰戦争のさなかの五月十八日に、新潟開港の延期を各国に通告します。ところが、イギリスを除く国々が新政府の通告を聞き入れず、新潟はすでに開港されているとして、イタリヤやプロシアは新潟での貿易を自国民に認めていました。プロシアのエドワード・スネルら商人は、武器や商品を同盟軍や新潟の商人に売却してい

ます。

新政府軍は、同盟軍への武器弾薬の供給地となつている新潟町の攻略にとりかかります。七月二十五日に太夫浜付近に上陸し、二十九日に信濃川を渡つて新潟町を占領します。これにより、同盟軍は会津や庄内・米沢へ退却し、新政府軍の越後での勝利が決定的となりました。明治元（一八六八）年九月二十二日に会津藩が降伏し同盟軍との戦闘が終結したのち、新政府は十一月十九日（西暦一八六九年一月一日）をもって、新潟を開港することを諸外国に通告します。こうして、紆余曲折を経て何度も延期されてきた新潟開港がようやく実現することになります。

開港後の関税業務を扱う運上所（のちの税関）が、磐下川口付近を埋め立て、かさあげして、明治二（一八六九）年十月四日に完成します。運上所の建物は、日本の大工が西洋の建築をまねて造った擬洋風建築です。また、附属施設として石庫・土蔵・水柵・荷上場などが整えられました。現在、運上所や石庫・荷上場（復元）などと一緒に、かつて整備された新潟市歴史博物館は、往時の姿を偲ぶ場所となっています。

（わかさき あつろう 学芸員）



青柳橋のたもとからみた新潟税関  
明治初期 新潟市歴史博物館蔵

# むかしのくらし展 いれもの展

森 行人



竹をつかったいれもの

第一五回目となるむかしのくらし展はいれものがテーマです。各種の食膳具をはじめ、桶や樽、箆、籠、鍋や釜等、様々ないれものを展示しています。

使われました。二つ目のコーナーでは、中に水と火を入れて使う道具を展示しています。暖房具、七輪などの加熱する調理具、

展示の概要は、まず一つ目のコーナーではいれものを素材別に展示しています。素材ごとに並べてみると、道具の用途に合わせて素材の性質が上手に活かされていることに気づきます。竹を例に挙げると、米揚げ箆、竹行李、箕などの道具を展示しています。大ききの割に軽いのが特徴で、加えてしなやかな素材から生まれる強度は、運搬具に適していました。また、水に強く、腐りにくい竹の性質と、編んで作ることで生まれる通気性や通水性を活かし、保管や乾燥といった用途でも



火をいれるいれもの

行灯などの照明具を展示しています。一見いれものとは言い難い道具ですが、例えば暖房具は中に燃える火を入れて、その火を手や足を暖める熱源として使う、という見方ができます。火は食材の加熱や、周りにいる人を暖める暖房、夜に周囲を照らす照明としての機能を併せ持っています。展示では、火を中に入れて、くらしの様々な場面面で火の用途に供するものとして紹介しています。

三つ目のコーナーは、「くらしの中に入れてくらしに役立てるといふ視点で道具を見ると、その道具が必要とされる理由や、道具に求められる性能も見えてきます。以上の展示を通じて、道具に込められた工夫やその背景にある当時のくらしの在り方を考えます。(もり ゆきひと 学芸員)



新潟の塗り物



いろいろなお弁当

の入れるもの」と題して、くらしの場面ごとに、使い方の解説を加えて道具を展示しています。食事から食べ物、暖房、衣服の手入れと保存、就寝など、できるだけ多くの場面を取り上げています。中に物を



【図1】初代新潟県庁 明治6(1873)年 新潟市歴史博物館蔵

## 歴史さんぽ

### 榎谷小路×西堀通

新潟市中央区西堀交差点

榎谷小路は、かつて西堀通との交点がつきあたりでした。

新潟が開港した翌年の明治3(1870)年3月、ここに県庁が設置されました【図1】。西堀に架けられた橋は、旧新潟奉行所を利用した県庁の正門へ続いています。江戸時代には、湊町新潟の支配機関がおかれたこの場所に、新潟開港によって県域行政の中核がおかれたのです。

明治13(1880)年の大火によって庁舎が焼失したのち県庁は移転し、警察署と新潟区役所(のち初代市役所)が建てられました。新潟町は明治12(1879)年に「新潟区」、明治22(1889)年には関屋地区を加えて「新潟市」となります。

明治41(1908)年9月の大火は、このあたりを大きく様変わりさせます。火災後の「市区改正計画」により、榎谷小路を5間(約9m)から2倍に拡幅し、寺町を突き抜ける道路を新設したのです。榎谷小路は東中通、さらに浜へとつながり、新道を挟んで新たな警察署(明治43年)と市役所(44年)が建てられました。

現在、もと警察署の位置には新潟三越が、市役所の位置にはNEXT21が建っています。昭和12(1937)年、榎谷小路のさらなる拡幅によって移転した警察署跡地に、小林百貨店がオープンしました。同時に斜め向かいに万代百貨店(のちの大和百貨店)もでき、

当時の活気がうかがわれます。しかし、昭和40年代以降、大型店進出や萬代橋東詰の商業地(万代シティ)造成など商戦が激化し、小林百貨店は自主経営を維持できず昭和55(1980)年に「新潟三越」へ看板替えしました。



【図2】新潟三越とNEXT21 平成30(2018)年撮影

その頃には向かいの市役所(4代目)も老朽化と手狭であることを理由に移転が決定し、平成元(1989)年に現在の学校町通1番町へ移りました。跡地には、公共の文化ホールを併設した地上21階、高さ125mの高層ビル「NEXT21」がオープンしました。平成6(1994)年のことです。

昨年8月、NEXT21に中央区役所が移転し、28年ぶりに行政機能がここへ戻りました。今年9月には、新潟三越が2020年3月の閉店を発表しています。

榎谷小路と西堀通の交点は、いまなお行政と商業の渦の中で変わり続けています。

中村 里那(なかむら さとな 学芸員)

#### おすすめの1冊

### 蒲原平野に生かされて

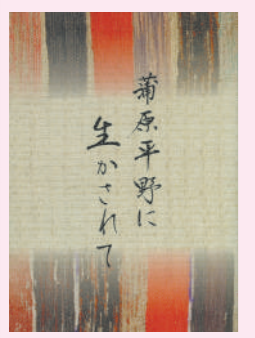
自費出版のため手に取る機会は少ないものの、多くの市民に読んでほしい1冊です。

著者のきいさんは九二八年に旧黒埼町の木場の農家に生まれ、同じ木場の農家に嫁ぎました。仕事疲れの後に短歌を詠むことが趣味という彼女の文章は、具体的に温か味があります。本書は新聞に連載されたコラムや投稿された短歌を息子さんが編集したものです。

蒲原平野の農業の歴史は、みなとびあ常設展示のテーマの一つです。彼女のご家族やご先祖はその歴史の延長線上にある実践者です。彼女は、人力の時代から機械が導入され、変化していく農業を目の当たりにしながら、農家としての仕事や暮らし、日々感じたことや社会への考えなどを綴っています。機械と農業により農業は楽になる一方、彼女自身、慢性農業中毒症に冒され、治療を必要とする生活を余儀なくされます。手間がかかり重労働であったかつての農業にも、喜びがあり楽しみがあったことを彼女は伝えてくれます。

残念ながら当館では図書の貸出しは行っておりません。一時間、当館のライブラリーにこもって読み更けてみてはいかがでしょうか。

(小林 隆幸 副館長)



青木きい 著 青木弘 発行 2004年4月

本館では、新潟市の歴史や文化に関わる様々な「資料」を収集しており、その多くは市民の方々のご厚意でお願いいただいたものです。今年も、現時点で一八件の寄贈があり、その点数は約一〇〇〇点にのぼります。二〇一九年二月九日（土）から開催される「収蔵品・新収蔵品展」では、これら新収蔵品を紹介いたします。

寄贈いただく資料の多くは新潟市にゆかりのあるものですが、今年、「鯛車」や「金魚提灯」といった鯛や金魚をかたどった全国各地の郷土玩具を寄贈していただきました。主に土産物として販売されているものが多く、北は青森県から南は佐賀県まで計一六六の郷土玩具があります。

そもそも、日本各地で「鯛」や「金魚」を題材にした玩具が製作されるのはなぜでしょうか。「鯛」を題材とするのは、一般的に縁起の良いもの代表格であるからという理由があります。一方、「金魚」を題材にした玩具は、かつて金魚の養殖が盛んであったという歴史的背景をもつ地域で製作されることがあります。例えば、寄贈された

もの一つに青森県の「金魚ねぶた」というものがありますが、これは江戸時代に津軽地方で飼育されていた「津軽鯛」という金魚がモデルであるといえます。この「津軽鯛」という種類の金魚は高価であり、庶民の間で飼育することができなかつたため、玩具にすることで人々は金魚に親しんだのでしよう。

郷土玩具は、本来厄除けや豊作祈願など民間信仰に結びついたものや縁起物的な性格をもっています。例えば、「鯛車」などの赤色の玩具は昔から痘瘡除けの効果があるとされ、子供たちを病魔から守ってほしいという親の願いが込められています。また、各地の習俗、生活行事との結びつきがあるものも多く、「鯛車」のようにお盆の時期に「ぼんぼり」の中をろうそくを灯して子供たちが曳いて遊んだものもあれば、静岡県静岡市の郷土玩具「祝い鯛」のように、めでたい飾り物として正月の玄関や祝いの席に飾られるものもあります。しかし、時代が下り民間信仰や習俗が衰退していくにつれ、郷土玩具は「鑑賞品」や「土産物」として、本来とは異なる目的に変化していきましました。

その分岐点となったのが、第二次世界大戦期です。この時期、戦争の混乱や物資の不足などで玩具の製作が中断される地域が多く、加えて子供たちが玩具に親しむ余裕もなくなってしまうため、玩具は人々にとって遠い存在となりました。しかし、戦争が終わると、平和や文化の象徴として郷土玩具が注目されるとともに、各地で地元の郷土玩具を復興しようとする試みがおこなわれました。

新潟市の郷土玩具「金魚台輪」は、明治二十（一八八七）年頃に市内の竹細工師が考案し、「鯛車」と同様にお盆近くになるとぼんぼりの中をろうそくを灯して子供たちが曳いて遊びました。しかし、戦中は経費削減などの理由で製作が中止されます。戦後、新潟市は市民に製作技術の指導などを行い、金魚台輪の復興を試みます。その結果、昭和四十四（一九六九）年に見事復活を遂げました。現在では、毎年夏季に開催される「城下町新発田まつり」において、子供たちが大型の金魚台輪を曳き回す「こども金魚台輪みこしパレード」がおこなわれ、その姿は新発田市の夏の風物詩になっています。

高度経済成長期に差しかかると、自動車の普及や公共交通機関の発展により観光旅行ブームが到来します。そして、これに波長を合わせるように、各地では伝統的な郷土玩具を模倣した土産物が続々と姿をあらわしました。玩具研究者である斎藤良輔は、この土産物のことを戦前の伝統的な郷土玩具と区別するために、「観光的郷土玩具」と呼んでいます（斎藤良輔『新装普及版 郷土玩具辞典』（東京堂出版 一九九七年））。「観光的郷土玩具」は、「装飾品」としての性質が強く、また戦前のものとは形態や材料が異なっているものも多くありますが、今日、観光資源として地域にとって重要な役割も担っています。（すずき さやか 学芸員）



鯛や金魚をかたどった郷土玩具

# 館長日記

Diary from the Director of a Museum

新潟市歴史博物館 館長 伊東 祐之

## 西安を訪ねて

十一月十四日から十七日まで西安を訪ねてきました。特別展「玉と鏡の世界」の開催を記念して、当館が企画した「西安博物院と秦・漢・唐の王都を訪ねる4日間」という市民交流ツアーといっしょの旅行でした。西安はあいにくの雨でしたが、参加者のみなさんは熱心に観覧し、楽しんでおられました。また、西安博物院には貴重な文物に触れる機会を設けていただきました。

唐の大明宮遺跡は大明宮国家遺跡公園になっていました。三、二平方キロメートルという広大な敷地に、ピジターセンターや復元された南大門、整備された含元殿基壇、壮大な都のミニチュア模型、シンボルアーチ、大明宮遺蹟博物館などが配置され、カーポートで遺跡内を移動できるようになっています。中国での遺跡の保存活用整備の準備の準備の手本とされているそうです。



大明宮遺蹟博物館の住宅の復元展示

です。

私は、十五年くらい前、整備計画ができたころに、含元殿遺跡を訪れています。遺跡は古い住宅に囲まれ、道路が狭かったのを覚えています。その住宅をすべて撤去して遺跡公園としたのです。西安の方は、放置して開発が進めば遺跡が破壊されるので、未発掘地も含めて公園として整備したと言っていました。

大明宮遺跡博物館は、唐の都の建築や暮らしなどを、出土品やパネル、CG映像などで展示しており、優品や出土品を並べただけの、従来の中国の博物館とは様変わりしていました。その最後のコーナーが、撤去された住宅の復元展示でした。説明文を読めない私には展示意図は判然としません。その貧しい暮らしを示すことで、十万人もの人を転居させたことの正当性を示しているのかもしれない。しかし、現地ガイドの方は「懐かしい。私が子供の頃の暮らしも同じだった」と言っていました。一気に経済成長が進み、人々の暮らしが急激に変化するなかで、中国でも一〇年、二〇年前の暮らしを展示する試みが始まったのだと感慨深いものがありました。

## 収蔵資料紹介

### 新潟市一九五三『新潟県産業観光大博覧会誌』

昭和二十八（一九五三）年七月一日から同年八月三十日までの会期で、新潟県産業観光大博覧会が新潟市総合グラウンドと白山公園を会場に開催されました。

この博覧会は、新潟市と新潟県が共催で開催したもので、その目的は、サンフランシスコ講和条約の締結を記念し、国内資源の開発と国内産業を紹介するとともに新潟の観光を宣伝することでした。

市総合グラウンドを中心に総合開発館、農機具館、東京館、北海道館などといったパビリオン数十棟が立ち並び、全国に先駆けて天然色のテレビが出品されるなど、当時最新の製品が展示されました。

写真の資料は、この博覧会を記念して発行された記念誌で、準備の段階から閉会までの事柄、各パビリオンの内容など、写真をふんだんに掲載して紹介しています。

もう一つの会場である白山公園には、「こどものくに」をテーマに、子供向けのさまざまなアトラクションが設置されました。下記左側の写真は、蓮池に設置されたお猿の列車と、回転しながら上下に動くアースウェーブという遊具を写した部分です。



右が「お猿の列車」、左がアースウェーブ



表紙(当館ライブラリーで閲覧可能)

転する飛行塔などが紹介されています。本資料は、いくつものアミューズメントが織り込まれた大博覧会の活況を知ることができる一冊です。（渡邊 久美子 学芸員）